

特集 (Special feature)

植松峻先生への感謝をこめて

Happy Retirement of Professor Takashi UEMATSU



岐阜パッパ合唱団演奏会2009 ハイドン：天地創造
2009年12月5日 サラマンカホール

植松峻 教授

(梶山女学園大学教育学部音楽コース主任教授)

Professor Takashi UEMATSU

(Chairman of the music course, School of Education, Sugiyama Jogakuen University)

植松峻 教授 略歴

Academic Career of Professor Takashi UEMATSU

1. 教育・研究歴

1963年(昭和38年)4月	東京学芸大学教育学部特設音楽科入学
1967年(昭和42年)3月	同上卒業 教育学士
1967年(昭和42年)3月	中学校教諭一級普通免許状 音楽 2587号(東京都)
1967年(昭和42年)3月	高等学校教諭二級普通免許状 音楽 2723号(東京都)
1967年(昭和42年)4月	東京藝術大学音楽学部声楽科入学
1971年(昭和46年)3月	同上卒業 芸術学士
1972年(昭和47年)10月	ウィーン国立音楽大学留学(1974年10月まで)
1975年(昭和50年)4月	名古屋芸術大学音楽学部音楽教育科 非常勤講師
1975年(昭和50年)12月	名古屋芸術大学音楽学部音楽教育科 専任講師
1978年(昭和53年)10月	同上 助教授
1986年(昭和61年)4月	岐阜大学教育学部 助教授
1992年(平成4年)12月	同上 教授
1995年(平成7年)10月	岐阜大学大学院教育学研究科教科専攻 教授 M [Ⓔ]
2007年(平成19年)4月	椋山女学園大学教育学部 教授
2012年(平成24年)4月	椋山女学園大学教育学部 客員教授(専任タイプ)
2014年(平成26年)4月	椋山女学園大学大学院教育学研究科 教授 M [Ⓔ]
2016年(平成28年)3月	同上 定年退職

2. 社会的活動

1976年(昭和51年)	岐阜バッハ合唱団 設立(現在に至る)
1985年(昭和60年)7月	日本音楽学会 会員(現在に至る)
1988年(昭和63年)4月	岐阜市市民芸術祭洋楽部会委員, 部長も歴任(現在に至る)
1988年(昭和63年)8月	NHK 全国学校音楽コンクール審査員(現在に至る)
1989年(昭和64年)9月	CBC こども音楽コンクール審査員(現在に至る)
2004年(平成16年)4月	日本教育大学協会東海地区音楽部会地区代表(2006年3月まで)

特集 (Special feature)

植松峻先生への感謝をこめて (Happy Retirement of Professor Takashi UEMATSU)

「深まりゆく合唱表現」

——植松先生へのインタビューから——

**Deepening of Chorus Representation: An Interview with
Professor Takashi UEMATSU**

渡邊 康*
WATANABE, Koh*

キーワード：バッハの宗教曲，合唱指揮，岐阜バッハ合唱団

Key words：religion music of Bach, the direction of choir, Gifu-Bach Choir

岐阜バッハ合唱団40年

——バッハの代表作「ロ短調ミサ曲」「マタイ受難曲」をそれぞれ数回と再演を重ねていらっしゃいますが、演奏されるたびに発見や変化はありますか？

植松：毎回新しい発見があるし、メンバーも変わるからね、エネルギーもいりますね。

——今年40周年ですね、最初からいらっしゃる方もありますか？

植松：男性で2人いますね。だから創設時に30歳前の方が今は70歳になってる。年齢層は高くなりましたね。なかなか若い人はあいった作品を歌わなくなっていますし。分かりやすい日本語で「涙」とか「青春」を歌った方が自分の気持ちを直接歌えるから。いいんでしょうね。

——年に2回演奏会をされることもありますね。

植松：普通は1年に1回だけど。バッハの生誕記念の年には3回するとか没後記念には2回するとかですね。回数としては40回を超えています。2回目のときに1回だけピアノ伴奏でしたけど、あとは小さなアンサンブルでもオーケストラでやるから。お金の話になるのはいけません、40回以上オーケストラで演奏会していますから経費1億円を超えてることになって、すごいなーって思いますね。

——バッハの演奏を続けられて、メンバーにはバッハの専門家ようになっておられる方もいらっしゃるでしょうね。

植松：もともとバッハが好きで名古屋の研究会に参加している人と、大学院生でプログラム原稿を書く人などもいるし、まあいろいろな人がいます。

バッハ演奏の難しさ

——「マタイ」も「ロ短調」もたくさんの曲が並んでいてテンポもリズムも違います。そのつなぎ目をどのようにするかは難しいではありませんか。

植松：そうね、間を取りすぎてもいけないし、アタッカのところもありますし。予備拍の出し方なんかはずっと迷っています。今も迷っていますけどね。だから一拍目を出すときが一番怖い。エンディングよりもね。ノリでいけるもんでもないしね、精神力と意志力がいます。そこが面白いところですね。自分で自分を調整できないといけません。——考えれば考えるほどわからなくなる場面がありますよね。

植松：そうね、一拍目をどうするかってね。起承転結があるし、曲の尻が頭になっていたりして次の展開を暗示してるとか。消えて全く新しくいく場合もあるし。「ヨハネ」とか「マタイ」はレチタティーヴォがものすごく曲を作る上で重要ですからね。「ヨハネ」は自分でレチタティーヴォを歌ってレッスンしていきます。前回の演奏会まで「ロ短調」は長く感じたけれど、今回（平成27年）の演奏では短く感じましたね。団員も短く感じたようですが、それは自分が作品を理解して作品に入ってきてから、1曲が終わって次がどんな曲かと分かるからだろうと思っています。それがおもしろかったですね。

どうして宗教音楽をやっているかという、民族や文化を超えて「助けてください！」とか「すみません！」とかはすべての人間にとって変わらない感情だからです。われわれすべての人の共通の音楽って感じで。「キリエ」とか「グローリア」っていうのは神を賛美しているっていうのは分かりやすい表現ですからね。「ミサ」は皆に分かりやすいですね。ただ「マタイ」は難しいね。裏切り行為のドラマだから。僕は「ヨハネ」と「マタイ」はオペラだと思っています。ただ純然たる音楽としては「ロ短調」が一番難しいと思っていますね。つかみにくいから。

——この前の演奏では「オザンナ」が2回出てくるところでそれが変化して聴こえたところがとても興味深かったです。

植松：ああ、やっぱり。2回目は前に「ヴェネディクト」があって、導入イメージが違うんですね。同じ曲だけど感じが違いますね。二重合唱で交互になっていてそしてそれが合体するという、ヴェネチアのサン・マルコ寺院の掛け合いの曲と同じような感じですね。

バッハからハイドンへ

——「マタイ」は知っているのですが「ヨハネ」はあまり知りませんがやはり良いですか。

植松：「ヨハネ」はドラマ性があります。合唱が中心でどんどん動いていく。「マタイ」はどちらかというとコラールで、何回も何回も同じテーマが出てきて最後には自

分も歌いたくなってくる統一感がありますが、「ヨハネ」はそういうことはないです。「ヨハネ」は22番を中心に作品構成が、シンメトリックになっていてね。

——もうひとつき聞かかったのは、「マタイ」のはりつけの音楽が他のバッハ作品にも出てくるのかということなのですが。

植松：苦悩を示す半音階とか、bach（筆者註：作曲家バッハと、シbラドシをかけている）で十字架を示すモチーフとかね。造形的な象徴主義を示していますし、音型からこれは自分でパズルを解くのと一緒。だんだん自分でヒントをつかめるようになるから面白いですね。そして減七の和音¹⁾が多いですね。信時潔²⁾が留学してバッハを聴いてこの減七の和音に驚いて自分の作品の重要な場面で使っています。ところがハイドンになると全音階的で、結構音響的に開放感があり明るく大地に広がっている。一方バッハの半音階的な音楽は調性感覚がつかみにくいから歌いにくいんだけど、練習回数が増える度に楽に感じます。生理的に歌いやすい。ところがハイドンは完全4度や5度進行³⁾があって歌いにくいです。けっこうパワーを必要とします。だからバッハを歌っててハイドンを歌うとハイドン特有の難しさがあります。古典とバロックの違いもあるだろうし。

身体性からのテンポ感覚

——少し話は変わりますが、40年やってらっしゃっていると作品に対するテンポの考え方は変わりませんか。

植松：浪川さん（浪川幸彦教授、梶山女学園大学教育学部）からもらったんだけど「マタイ」の曲のある曲の出だしを編集したのを30曲ぐらいもらったことがあります。それが全部ものすごく違うんだ。でもね、僕は自分のテンポは変化してないと思いますね。それは曲のテンポは自分の呼吸を基本にしているからです。よく団員に言われるのだけど。多少の揺れはあるけど全体としたらいつも同じ感じのテンポになっている。自分の生理的な自然なテンポで演奏しているからあんまり動かないのではないかなと思っています。外からテンポを作ることもできるかもしれないけど、やはり生理的な中から出るテンポで、人間の肉体をとおしたテンポで演奏するとい感じになるのかなと思う。だから考えられたデジタル的なテンポはとらないと言うことですね。それは僕が歌うってことを基本に置いてるから（器楽演奏家が指揮する）他の演奏とは違うかもしれない。器楽曲ではないから歌えない意図的なテンポで演奏することは違うってね。

——呼吸ということはあってもその辺の感覚は声楽ほどには器楽曲は気にしていないって感じでしょうかね。

植松：器楽曲でもね、自分でやってみると、拍の感じを個々の歌の呼吸を原点にするとダイナミックで良くなってる感じですね。新しい作品だと肉体感覚を離れてデジタル的にやった方が良い場合もあるかもしれないけど、ある一定の時代の音楽は人間の

呼吸にわりに関係したテンポをとるのが良くなってきたと思う。特にバッハの場合だと、すすり泣きのテンポとか三位一体のテンポとか、蹴っ飛ばすときのリズム感とかテンポとかは、人の肉体感覚から出てきていますからね。それから自分のテンポ感覚の限界を超えともう大変。アリアなんかでゆっくりになりすぎると、もう僕のテンポ感では耐えきれない。呼吸が合わなくてついていけないときはもう自分自身が我慢できないです。前回の演奏ではその限界がわかってきたかな。我慢できるようになってきたのは年をとってきた感じですかね。若いと前に突き進みたい感じになりますからね。

教えるということ

——先生は数多くの学生を教えられてきましたが、音楽を教えることに関しては時代や学校によって変化はありましたか。

植松：そうですね。40年前から教えてますからね。そうですね、生徒に関しては変化は無いのじゃないですかね。ただ教える僕の方はすごく変わったね、キャリアというか。いろんな生徒を見て勉強してますから。最初の頃は暗中模索でした。一生懸命教えてるんだけど。でも今では僕は21年間岐阜大学でも教えてきた色々な集積がある。だから生徒に言うのだけど、君たちは今、一番良い時に教わってるんだぞって。前は1時間かかったことを15分で教えて、言葉を無くして音そのもので教えてるんだぞって言ってます。コンパクトに教えることができるようになってる。僕が力がつくことによって学生に力がつくって感じですね。音楽に関しては生徒の中には力の高い学生がけっこういる。だから教えるのが面白い。問題は指導者がどのように工夫していくかってこと、悩んでいくことによって生徒が変わっていくってことです。子どもは時代で変わっていくかもしれないけど、先生が経験を積んでいくと本質に近づけ、何分の一かの時間で教えることができると思う。経験でどうやってこの子たちを勉強する気にさせるかということもわかるようになるし。それは教育の結果として現れてくるように思いますね。それから、自分もほめてもらって伸びてきたってことがあるね、怒ると相手はおびえているだけだから。怒らないようにしようって思いません。伸びやかな雰囲気の中でこそいろいろな発想も出てくるのだからね。

2016年1月28日 椋山女学園大学教育学部 宮田俊雄教授研究室にて
質問者：宮田俊雄教授・渡邊康准教授

■注

- 1) 短三度の音程で4つの音を重ねた和音。暗くて鋭い響きの不協和音。
- 2) 信時潔（1887～1965年）大阪出身の日本の作曲家。東京音楽学校作曲科（現東京芸術大学作曲科）の創設に尽力。「海道東征」、「海ゆかば」などの代表的歌曲の他、校歌、社歌、団体歌は1000曲以上作曲した。明治以降の日本の近代・現代の作曲界を代表する作曲家・作曲教師。
- 3) ド～ファヤソ～ドのように音階上の4度離れた音に大きく跳躍しながらメロディやベースの音が進行すること。

特集 (*Special feature*)

私の研究テーマ：41年間の大学生活を振り返って

**My Research Themes: Reflection of My Academic Life in
Forty-one Years**

植松 峻*
UEMATSU, Takashi*

私の41年間の大学に於ける研究テーマは下記の4つに絞ることができます。

第Ⅰ 生理的に解放された音声の研究と実践法について

第Ⅱ J. S. バッハの声楽曲の研究と演奏（受難曲，ミサ曲，カンタータ等）

第Ⅲ ドイツ語による声楽曲，特に，R. シューマン，F. シューベルト W. A. モーツァルト等の研究と演奏

第Ⅳ グレゴリオ聖歌のアルシス，テイジスを基本にした指揮法の研究と実践演奏

以上4つのテーマに共通するものは音声の「響き」であり，その響きを使っての演奏法であり楽曲分析を通しての内容把握であり音楽主張まで発展いたします。その研究は西洋音楽の有する本質を正確に理解つかむことであります。それらを研究することは，結果的には対角線上にあると考えられる日本音楽を理解することへも繋がってきます。西洋音楽を理解せず日本音楽を理解することは，難しいことと私は感じております。

植松峻 先生 研究業績目録

Recitals, Concerts and Publication List of Professor Takashi UEMATSU

1. 演奏会

- 1) 植松峻テノールリサイタル. 独唱, 1975年4月, 岐阜産業会館 (岐阜)
- 2) 植松峻テノールリサイタル. 独唱, 1975年4月, 沼津スルガホール (沼津)
- 3) 植松峻テノールリサイタル. 独唱, 1976年11月, 岐阜産業会館 (岐阜)
- 4) F. シューベルト作曲「美しき水車屋の娘」全20曲から6曲. 独唱, 1976年11月, 名古屋芸術大学教官, 三重県出身在学生有志による演奏会, 石水会館 (津)
- 5) J. S. バッハ作曲「カンタータ4番」「カンタータ12番」. 指揮, 1977年12月, 岐阜バッハ合唱団第1回演奏会, 岐阜産業会館文化ホール (岐阜)
- 6) F. シューベルト作曲「雷鳴とどろく中に」「夜」他3曲, L. ケルビーニ作曲「大編成のオーケストラを伴う男声合唱の為のレクイエム ニ短調」. 指揮, 1978年5月, 東海メールクワイアー第24回定期演奏会, 愛知文化講堂 (名古屋)
- 7) F. シューベルト作曲「愛」「ゴンドラをこぐ人」「夜」他3曲. 指揮, 1978年7月, 東海メールクワイアー日本男声合唱協会第4回演奏会, 弘前市民会館 (弘前)
- 8) J. S. バッハ作曲「マニフィカート B. W. V. 24番」「モテット3番」. 指揮, 1978年12月, 岐阜バッハ合唱団第2回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 9) F. シューベルト作曲「ホルン4本付の森の夜の歌」他4曲, F. リスト作曲「レクイエム」. 指揮, 1979年5月, 東海メールクワイアー第25回定期演奏会, 愛知県勤労会館 (名古屋)
- 10) L. V. ベートーベン作曲「アダライーデ」「五月」, シューベルト作曲「ミューズの子」他3曲. 独唱, 1979年6月, ピアノジョイントリサイタル, 三重県教育文化会館大ホール (津)
- 11) C. L. ボックスベルク作曲「門を広くあけよ」. 独唱, 1979年9月, 東海メールクワイアー第26回定期演奏会, 中電ホール (名古屋)
- 12) 大中恩作曲「ヴェニウス生誕」, A. ロッテ作曲「学生ミサ」. 指揮, 1979年9月, 東海メールクワイアー第26回定期演奏会, 中電ホール (名古屋)
- 13) F. シューベルト作曲「小さき村」「森の夜の歌」他3曲, 大中恩作曲「ヴェニウス生誕」. 指揮, 1979年10月, 東海メールクワイアージョイントコンサート (小田原男声合唱団), 小田原市民会館 (小田原)
- 14) J. S. バッハ作曲「マニフィカート」, W. A. モーツァルト作曲「ミサ・プレヴィウス」「オルガン独奏ミサ」. 指揮, 1979年12月, 岐阜バッハ合唱団第3回演奏会, 岐阜産業会館 (岐阜)
- 15) F. P. トスティエー作曲「さらば」「4月」「理想の人」「夕べに」, 清水脩作曲「アイヌのウポポ」. 指揮, 1980年3月, 東海メールクワイアージョイントコンサート (ベルリンリーダーターフェル), 愛知文化講堂 (名古屋)
- 16) F. シューベルト作曲「ゴンドラに乗って」他1曲, F. メンデルスゾーン作曲「夏の歌」「水面を行く」他2曲, 清水脩作曲「智恵子抄巻末のうた六首」オペラ合唱曲「水夫の合唱」「囚人の合唱」他2曲. 指揮, 1980年10月, 東海メールクワイアー岐阜演奏会, 岐阜産業会館 (岐阜)
- 17) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲」. 指揮, 1980年12月, 岐阜バッハ合唱団第4回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 18) 清水脩作曲「大手拓次の三つの詩全三曲」. 指揮, 1981年3月, 東海メールクワイアー日本男声合唱協会第5回演奏会, 小田原市民会館 (小田原)
- 19) L. ケルビーニ作曲「大編成オーケストラを伴う男声合唱の為の第二鎮魂歌ミサ曲」「僧侶の合唱」「囚人の合唱」「狩人の合唱」, 大中恩作曲「四季のスケッチ」. 指揮, 1981年6月, 東海メールクワイアー創立35周年記念演奏会 第27回定期演奏会, 愛知厚生年金会館 (名古屋)

- 20) 大中恩作曲「ヴェニユス生誕」, 清水脩作曲「月光とピエロ」, 指揮, 1981年6月, 東海メールクワイアー-NHK FM放送「たのしいコーラス」, NHK CK ホール (名古屋)
- 21) J. S. バッハ作曲「モテット2番」「モテット3番」「モテット6番」, 指揮, 1981年12月, 岐阜バッハ合唱団第5回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 22) 大中恩作曲「四季のスケッチ」, 指揮, 1982年5月, 東海メールクワイアー男声合唱協会10周年記念演奏会, 新宿文化センター大ホール (東京)
- 23) F. シューベルト作曲「ムーア人の合唱」「十字軍兵士の合唱」他3曲, 信時潔作曲「沙羅」, 指揮, 1982年10月, 東海メールクワイアー第28回定期演奏会, 愛知県勤労会館 (名古屋)
- 24) W. A. モーツァルト作曲「ヴェスペレ」「戴冠式ミサ」, 指揮, 1982年12月, 岐阜バッハ合唱団第6回演奏会「モーツァルトの夕べ」, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 25) ジョスカン・デープレ作曲「ミサ・マーテルベパートス」古典イタリア歌曲「日は昇りぬ, ガンジスより」「ラルゴ」他3曲, 指揮, 1983年7月, 東海メールクワイアー第29回定期演奏会, 愛知文化講堂 (名古屋)
- 26) J. S. バッハ作曲「ロ短調ミサ曲」, 指揮, 1983年12月, 岐阜バッハ合唱団第7回演奏会 (第68回市民の劇場), 岐阜市民会館 (岐阜)
- 27) J. ブラームス作曲「リナルド」, F. リスト作曲「レクイエム」, 1984年2月, 東海メールクワイアー日本男声合唱協会第7回演奏会, 愛知厚生年金会館 (名古屋)
- 28) 大中恩作曲「四季のスケッチ」, 1984年5月, 東海メールクワイアー-NHK FM放送「たのしいコーラス」, NHK CK ホール (名古屋)
- 29) 南弘明作曲「月下の一群」, 南安雄作曲「子供の詩」, 指揮, 1984年10月, 東海メールクワイアー第30回定期演奏会, 名古屋芸創センター (名古屋)
- 30) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム KV626」, 指揮, 1984年12月, 岐阜バッハ合唱団第8回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 31) J. S. バッハ作曲「カンタータ131番」, 指揮, 1985年5月, 岐阜バッハ合唱団第9回演奏会 バッハ生誕300年記念 (パートI), 岐阜市文化センター (岐阜)
- 32) J. S. バッハ作曲「カンタータ140番」「カンタータ147番」「ミサ曲へ長調よりグロリア」, 指揮, 1984年10月, 岐阜バッハ合唱団第10回演奏会 バッハ生誕300年記念 (パートII), 岐阜市文化センター (岐阜)
- 33) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲」, 指揮, 1985年12月, 岐阜バッハ合唱団第11回演奏会 バッハ生誕300年記念 (パートIII), 岐阜市民会館 (岐阜)
- 34) J. ハイドン作曲「ミサ曲第7番へ長調」, 指揮, 1986年12月, 岐阜バッハ合唱団第12回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 35) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲」, 指揮, 1987年12月, 岐阜バッハ合唱団第13回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 36) 安井万治作曲「鶉飼」, 指揮, 1988年7月, 岐阜バッハ合唱団岐阜市制100年記念第1回市民芸術祭 (洋楽の部), 岐阜市民会館 (岐阜)
- 37) J. S. バッハ作曲「モテット1番」, W. A. モーツァルト作曲「レクイエム」, 指揮, 1988年12月, 岐阜バッハ合唱団第14回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 38) J. ハイドン作曲「ミサ曲第9番へ短調」, 指揮, 1989年12月, 岐阜バッハ合唱団第15回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 39) J. S. バッハ作曲「ロ短調ミサ曲」, 指揮, 1990年12月, 岐阜バッハ合唱団第16回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 40) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム」, 指揮, 1991年5月, 岐阜バッハ合唱団第17回演奏会 モーツァルト没後200年記念 (パートI), 岐阜市民会館 (岐阜)
- 41) W. A. モーツァルト作曲「アヴェヴェルムコルプス」「戴冠式ミサ へ長調」, 指揮, 1991年12月, 岐阜バッハ合唱団第18回演奏会 モーツァルト没後200年記念 (パートII), 岐阜市民会館 (岐阜)
- 42) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲 BWV245」, 指揮, 1992年12月, 岐阜バッハ合唱団第19回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)

- 43) J. ハイドン作曲「天地創造」. 指揮, 1993年12月, 岐阜バッハ合唱団第20回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 44) J. S. バッハ作曲「カンタータ第4番 BWV4」「カンタータ第131番 BWV131」「マタイ受難曲」からコラールと終曲. 指揮, 1994年7月, 岐阜バッハ合唱団第21回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 45) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム K626」「ミサ・ブレーヴィス〈オルゲルソロミサ〉K259」. 指揮, 1994年12月, 岐阜バッハ合唱団第22回演奏会, 岐阜市民会館 (岐阜)
- 46) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲 BWV244」. 指揮, 1995年12月, 岐阜バッハ合唱団第23回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 47) J. S. バッハ作曲「ミサ曲口短調 BWV232」. 指揮, 1996年12月, 岐阜バッハ合唱団第24回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 48) F. シューベルト作曲「ミサ曲第2番ト長調 D167」, W. A. モーツァルト作曲「レクイエム K626」. 指揮, 1997年12月, 岐阜バッハ合唱団第25回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 49) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲 BWV245」. 指揮, 1997年12月, 岐阜バッハ合唱団第26回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 50) モーツァルト作曲「ミサ・ブレーヴィス」ハ長調 オルゲルソロ・ミサ K259からキリエ, 「レクイエム」からレクイエム, キリエ, ディーエス・イレ, ラクリモーザ, 「ヴェスベレ」ハ長調 K339から「主をほめ讃えよ」, シューベルト作曲「ミサ曲第2番」ト短調 D167からキリエ, クレド, 「ドイツミサ曲」D872からトゥム・サンクト, ハイドン作曲「天地創造」から「天は神の栄光を語り」. 指揮, 1997年12月, ウィーンの音楽, サラマンカホール (岐阜)
- 51) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム」K626からレクイエム〜キリエ〜怒りの日〜涙の日. 1998年10月, 国民文化祭ぎふ'99「室内楽の祭典」特別出演, サラマンカホール (岐阜)
- 52) J. S. バッハ作曲「ミサ曲口短調 BWV232」. 指揮, 1998年12月, バッハイヤー記念演奏会シリーズ第1弾 岐阜バッハ合唱団第27回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 53) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲 BWV245」. 1999年5月, バッハイヤー記念演奏会シリーズ第2弾 岐阜バッハ合唱団第28回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 54) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲 BWV244」「ヨハネ受難曲 BWV245」「ミサ曲口短調 BWV232」「クリスマス・オラトリオ BWV248」からコラールと合唱「モテット第3番 BWV227」「プレリュードとフーガイ短調 BWV543 (オルガン独)」。指揮, 1999年9月, バッハイヤー記念演奏会シリーズ第3弾 岐阜バッハ合唱団第29回演奏会 メモリアルイヤーコンサートのためのミレニアムプログラム バッハの4大宗教曲から〜, サラマンカホール (岐阜)
- 55) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲 BWV244」. 指揮, 1999年12月, バッハイヤー記念演奏会シリーズ第4弾 岐阜バッハ合唱団第30回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 56) J. ハイドン作曲「天地創造」. 指揮, 2001年12月, 岐阜バッハ合唱団第31回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 57) J. S. バッハ作曲「ミサ曲口短調 BWV232」. 指揮, 2002年11月, 岐阜バッハ合唱団第32回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 58) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲」. 指揮, 2003年12月, 岐阜バッハ合唱団第33回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 59) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム K626」「ヴェスベレ K339」. 指揮, 2004年12月, 岐阜バッハ合唱団第34回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 60) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲 BWV244」. 指揮, 2005年12月10日, 岐阜バッハ合唱団第35回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 61) Musik Freude Freude 演奏会. 企画・構成・指導, 2006年9月23日, サラマンカホール (岐阜)
- 62) W. A. モーツァルト作曲「アヴェ ヴェルム コンプス」「戴冠式ミサ曲」「レクイエム」. 指揮, 2006年12月8日, 岐阜バッハ合唱団第36回演奏会, サラマンカホール (岐阜)
- 63) Musik Freude Freude 演奏会. 企画・構成・指導, 2007年7月28日, サラマンカホール (岐阜)

- 64) 歌を愛する仲間たち演奏会. 企画・構成・指導, 2007年9月17日, 岐阜メルサホール
- 65) J. S. バッハ作曲「ロ短調」ミサ曲. 指揮, 2007年12月1日, サラマンカホール (岐阜)
- 66) Musik Freude Freude 演奏会 声楽とピアノの演奏会. 主宰, 2008年7月12日, サラマンカホール (岐阜)
- 67) 歌を愛する仲間たち. 主宰, 2008年9月14日, 岐阜メルサホール (岐阜)
- 68) J. S. バッハ作曲「マタイ受難曲」. 指揮, 2008年12月6日, サラマンカホール (岐阜)
- 69) F. J. ハイドン作曲「天地創造」. 指揮, 2009年12月5日, サラマンカホール (岐阜)
- 70) J. S. バッハ作曲「ヨハネ受難曲」. 指揮, 2010年6月4日, サラマンカホール (岐阜)
- 71) J. S. バッハ作曲「ミサ曲ロ短調」. 指揮, 2010年11月12日, サラマンカホール (岐阜)
- 72) W. A. モーツァルト作曲「レクイエム」, F. シューベルト作曲「ミサ曲第2番」. 指揮, 2011年10月22日, サラマンカホール (岐阜)
- 73) J. S. バッハ作曲「ミサ曲ロ短調」. 指揮, 2011年12月16日, サラマンカホール (岐阜)

2. 著書

- 1) 音楽科教育実践講座ソナーレ「SONARE」第2巻 明確で美しい発音. 小原光一監修, (理論編)中村義春, 宮野モモ子, 宮内秀男, 宇佐美桂一, 植松峻, 中井憲照, 小川俊彦, 相澤宏一, 中村義朗, 全17巻シリーズ 第2巻 本人担当部分: 第2巻第5章第2節 (pp. 268-293) 1992年2月,

株式会社ニチブン (東京)

3. 学術論文

- 1) EDMARS を用いた音楽教育に関する書誌情報的研究動向の分析——教育研究文献データベースの索引語出現頻度から見た数量的分析. 朝田健, 植松峻, 1994年2月, 論文掲載: pp. 1-8 岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター (14巻, No. 7)
- 2) 歌唱教育に関する書誌情報の EDMARS を用いた分析. 八神利夫, 朝田健, 植松峻, 1994年12月, 論文掲載: pp. 14-17 岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター
- 3) 音楽教育「器楽」「うた」領域における教育文献データベースを用いた研究動向の分析. 植松峻, 朝田健, 八神利夫, 1994年12月, 論文掲載: pp. 18-25 岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター
- 4) 人間の声音, 声に関する考察. 植松峻, 朝田健, 1995年3月, 論文掲載: pp. 99-107 岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第43号第2号

4. 審査指導

- 1) NHK 全国学校音楽コンクール. 審査指導, 2007年8月, 長良川国際会議場メインホールさらさへら
- 2) CBC こども音楽コンクール. 審査指導, 2007年9月, 11月, 名古屋 CBC ホール
- 3) 岐阜県女声合唱連. 助言指導, 2007年12月, サラマンカホール
- 4) NHK 全国学校音楽コンクール. 審査指導, 2008年8月, 長良川国際会議場メインホール
- 5) CBC こども音楽コンクール. 審査指導, 2008年10月, CBC ホール